

デジタル田園都市国家構想交付金 令和5年度採択事業一覧

資料 2

① 地方創生推進タイプ（主にソフト事業）

- ・総合戦略に位置付けられた、自主的・主体的で先導的な取組を複数年度にわたり安定的・継続的に支援
- ・補助率： 1／2
- ・申請事業数： 新規申請4事業以内（広域連携は1事業追加、Society5.0は申請上限数を超過して申請可）+ SDGs未来都市申請枠1事業

② 地方創生拠点整備タイプ（主にハード事業）

- ・総合戦略に位置付けられた、地方創生の推進に資する観点から基盤となる施設整備等に対する支援
- ・補助率： 1／2
- ・申請事業数： 制限なし ※補正の場合

R5.4.14

区 分		単独/ 広域	事業名	目的・概要	事業内容	(総事業費※) 対象事業費 【交付金】 (千円)	事業 期間 (年度)	予算 区分 (国)
① 推進タイプ	新規	単独	デジタル時代のコーポレートブランド推進プロジェクト	人口減少に歯止めをかけ、若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現、東京等首都圏の一極集中の是正や地域の特性に即した地域課題の解決により、それぞれの地域で住み良い環境を確保し、将来にわたって活力ある地域会を維持することを目指す。	○コーポレートブランドアクションプラン推進 ○移住定住DX推進 ○メディアミックスによるローカルブランド発信 ○ローカル発信人材育成 ○国道361号山麓一サイクル街道構築 ○高遠石エアーカブ推進	(172,949) 52,062 【26,031】 ※減額採択	R5 ～R7	R5 当初
		単独	中山間地”伊那谷”に根ざすスマート農業	農業者の経営力の底上げを図り、農業生産性を向上させ、農業者が将来にわたって農業経営を継続することが可能になることを目指す。	○アスパラガス自動収穫機の運用に適した圃場整備 ○②GISを用いた農業水利施設管理のICT化	(181,000) 62,000 【31,000】	R5 ～R7	R5 当初
	継続	単独	しごと2.0(働き方ダーバシティ)創出事業	働きながら複業を促す企業も増えており、従来型の「しごと」は新たなフェーズ「2.0」に移行しつつある。この機運を地域活力に生かすため、移住希望者等の半農や複業への取組を推進する。移住希望者等が地域産業の担い手として発展的に立場を変化させながら、地域コミュニティを強化する立場として活躍できる地域を目指す。	○新たなプラットフォーム(モバイルオフィス(MO))の構築 ○地域ニーズに対応したテレワーカー複業の創造 ○半農テレワーカーの創造	(157,900) 42,000 【21,000】	R3 ～R5	R5 当初
		単独	農と林の地域資源を活用するイノベーション促進事業	地域内外の人を集め斬新なアイデアを創出し伊那市に関わりを持つ人を増やす場づくりを行う。また、この場で創り出されたアイデアと人とのつながりを活かし、新たな生業を創る起業をサポートする体制を構築する。 さらに、伊那の地域資源を有効活用する取組として、「みどりの食料システム戦略」に示されている持続可能な農業の推進と、観光分野と連携することによる耕作放棄地の有効利用に関する実証事業を実施する。	○地域内外の人が混ざり、新しいアイデアを創出するアイデアソンを実施 ○地域資源を活用して起業する者を伴走支援 ○持続可能な農業を地域に普及させるための講座を実施 ○(家庭でのゼロカーボンに向けた課題整理・地域材住宅の設計とリレー式研究発表による林業関係者のネットワークづくり ○長谷高遠地区の地域資源を活用して過疎地域に人を呼び込む仕組みを開発 ○埋蔵文化財を包蔵する耕作放棄地で発掘調査を実施し、発掘体験ツアーを実施	(258,000) 98,000 【49,000】	R4 ～R6	R5 当初
		単独	INAスーパーエコポリス構築プロジェクト(Society5.0)	テクノロジー偏重の都市型スマートシティにはない、広大な山岳森林や河川等の自然環境と、人の手による住民コミュニティの活用をテクノロジーで実現する伊那市版スマートシティ「スーパーエコポリス」を実現する。	○ORT(ロボティクス)による健康増進 ○ドローンのマルチユース化 ○観光・移住定住等関係人口の構築 ○医療型MaaSの高度化 ○マルチタスク型MaaSの構築 ○移動型MaaSシステムの高度化 ○総合進捗管理・仕様検討ワーキング	(793,000) 197,000 【98,500】	R3 ～R7	R5 当初
	推進タイプ 合 計						(1,562,849) 451,062 【225,531】	

区 分		単独/ 広域	事業名	目的・概要	事業内容	(総事業費※) 対象事業費 【交付金】 (千円)	事業 期間 (年度)	予算 区分 (国)
② 拠点整備タイプ	新規	単独	戸台口山岳観光拠点整備事業	仙流荘を山岳観光拠点として、南アルプスの充実した情報提供ができるインフォメーション(南アルプス(中央構造線エリア)ジオパーク、ユネスコエコパーク、動植物、登山道、山小屋等)を設置し山岳観光の振興に繋げる。 仙流荘を山岳観光拠点として整備を行うとともに、休暇型ワーケーションが行えワーク・ライフ・バランスの実現に繋がるよう、日帰り及び宿泊観光客の交流人口の増加と健康増進を図る。	南アルプス関係の展示スペース、南アルプス林道バス営業所、長期滞在で仕事をするためのオンライン会議用のWEBミーティングルーム(会議室)1室、ワーケーション室2部屋を設置。	(165,901) 拠点分 160,800 【80,400】 推進分 5,101 【2,550】	R5	R4 補正
	拠点整備タイプ 合 計					(165,901) 165,901 【82,950】		
	総 計					616,963 【308,481】		

※ 実施計画における事業期間(複数年)の総事業費
※2 事業ごとに端数処理をしているため、合計は各事業の合算とは一致しない